洋０６－１２２

「ウルトラヴァイオレット」

２００６（平成１８）年７月２日鑑賞＜道頓堀東映パラス＞

監督・脚本：カート・ウィマー
ヴァイオレット／ミラ・ジョヴォヴィッチ
シックス／キャメロン・ブライト
ガース／ウィリアム・ファクトナー
ダクサス／ニック・チンランド
ソニー・ピクチャーズ　エンタテインメント配給・２００６年・アメリカ映画・８７分

＜超人間「ファージ」とは？＞

この映画を理解するためには、新たな知識として「ファージ」なるものの概念を学ばなければならない。ファージとは、２１世紀末の近未来に、新種のウィルスに感染したことによって体力・知力ともに驚異的な能力を習得した「超人間」。そう聞くと感染してもマイナスではないと思えるのだが、問題はファージの余命は感染してから１２年と限られているところ・・・。先日観た『Ｘ－ＭＥＮ：ファイナル　ディシジョン』（０６年）は、さまざまな超能力を持つのは「ミュータント」だったが、こちらは「ファージ」。いろいろと考えつくものだと感心しながらも、一から勉強しなければならないネタが次々と・・・。

＜ウルトラヴァイオレットとは？＞

ウルトラヴァイオレットとは、美しいある女性ファージの名前。ファージの力に恐れを抱いた人間政府が、ファージを絶滅させるための最終兵器を開発したという情報を受けたファージの地下組織は、その兵器を奪うために送り込んだのが最強兵士ウルトラヴァイオレットというわけだ。『Ｘ－ＭＥＮ：ファイナル　ディシジョン』は、ミュータントの能力を奪い、普通の人間に戻すための新薬「キュア」の開発とその実用化をめぐって、反人間政府のために立ち上がった過激派「ブラザーフッド」ＶＳ人間政府の闘いが基本構図だったが、『ウルトラヴァイオレット』におけるファージＶＳ人間政府の闘いも、まあこれと似たようなもの・・・？もっとも、『Ｘ－ＭＥＮ：ファイナル　ディシジョン』は数多いコミックの中で売り上げＮＯ１をキープしている超人気作品だが、『ウルトラヴァイオレット』は・・・？「『バイオハザード』（０１年）を超えた強く・美しく・過激で・切ない・スーパーヒロイン」というのが謳い文句だが、果たしてその実態は・・・？若者客で埋まるはずの観客席も、実はガラガラ・・・。

＜美しい長髪とヘソ出しルックの女戦士の魅力は・・・？＞

ミラ・ジョヴォヴィッチが世界にはじめて登場したのはリュック・ベッソン監督の『フィフス・エレメント』（９７年）。その後『ジャンヌ・ダルク』（９９年）というものすごい歴史大作に出演したものの、その肉体的魅力が先行して（？）『バイオハザード』（０２年）や『バイオハザードⅡアポカリプス』（０４年）などに活用されてきたのが彼女。

これは、『チョコレート』（０１年）でアフリカン・アメリカンとして初のアカデミー賞最優秀主演女優賞を獲得したハル・ベリーが、その肉体的魅力を誇示するかのように『００７／ダイ・アナザー・デイ』（０３年）、『キャットウーマン』（０４年）そして、『Ｘ－ＭＥＮ２』（０３年）、『Ｘ－ＭＥＮ：ファイナル　ディシジョン』（０６年）などに出演してきたのと同じ・・・？

「この手の映画」は、美しい女戦士の魅力をどのようなスタイルで見せるのかが勝負の分かれ目（？）だが、この映画でのミラ・ジョヴォヴィッチのスタイルは長髪、ヘソ出しルックそしてブーツとダークスーツというもの。

＜いっそ、日本刀を背負っては・・・？＞

そして、この女戦士愛用の武器は両手に持った銃。これだけの多機能な銃を使いこなすのは片手だけでも大変なのに、両手でそれを駆使するパワーとスピードが彼女の持ち味・・・。

さらにすごいのは、彼女が剣の達人でもあること。日本刀とは少し違う剣だが、その「太刀回り」は日本刀によるものとそっくりの感も・・・。これならいっそうのこと『キル・ビル～ＫＩＬＬ　ＢＩＬＬ～Ｖｏｌ．１』（０３年）のユマ・サーマンのように、日本刀を背中から背負った方が背の高いミラ・ジョヴォヴィッチなら見栄えが良かったのでは・・・？この映画のポイントは、そんなミラ・ジョヴォヴィッチ演ずる女戦士ウルトラヴァイオレットの美しさとカッコ良さにどこまで酔えるかということ。すると逆に言えば、物語自体は大したことはないということ・・・？

＜女戦士にも意外な母性本能が・・・？＞

要塞のようなビルに入り込み、厳重なＤＮＡ検査をくぐり抜け、命がけでやっと奪った「最終兵器」だったが、そのケースの中身を見てヴァイオレットはビックリ。そこには一人の少年が眠っており、この少年の血液中にファージを殺す抗原が培養されていたのだった。そこで突然甦ってきたのがヴァイオレットの母性本能。

もうすぐ生まれる子供とともにウイルスに感染したため、わが子を失ったヴァイオレットにとっては、こんな少年を見殺しにすることは出来ないことだった。そこでヴァイオレットが取った行動は、最終兵器奪取の指令を与えたファージの地下組織を裏切り、少年スミス（シックス）（キャメロン・ブライト）の手を取って逃げていくことだった。もっとも、いくら母性本能に目覚めたからといっても、私の目にはこんなヴァイオレットの行動は少し支離滅裂・・・？

＜残された時間はあと数時間・・・＞

ファージの滅亡を目指す人間政府の黒幕はダクサス（ニック・チンランド）。傷ついたヴァイオレットはスミスを連れ出すとともに、唯一の味方である科学者のガース（ウィリアム・ファクトナー）から治療を受けたが、敵の圧力はひしひしと迫り、スミスも奪われてしまった・・・。ここに、ヴァイオレットは自らの生命をかけて最後の闘いをダグサスに対して挑むことに・・・。

日本風に言えば、堪忍袋の緒が切れた藤純子扮する「緋牡丹お竜」さんが、女一匹ドスを抱えて敵の待つ屋敷へ殴り込み、というところか・・・？しかしそもそも、ヴァイオレットにはファージとしての残された寿命自体があと数時間。

さて、ダグサスの待つビルの中に一人乗り込むヴァイオレットは、そこでどんな活躍を・・・？そして、無事スミスを救い出すことができるのだろうか・・・？さらに、またその闘いの中で明らかになるさまざまな隠された秘密とは・・・？

２００６（平成１８）年７月６日記